



テーマ PA → パブリック・アドレス
音響 ← 公衆伝達

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

多様なサウンドパフォーマンスを
一挙に紹介する企画、今年も開催！
ゲストアーティスト決定！

2/9(土) 夏の大△ 藤田陽介
2/11(月祝) 電力音楽 (木下正道・多井聰紀・池田拓実)
Hair Stylistics (a.k.a. 中原昌也)

2019年 2月9日(土)17:00
11日(月・祝)15:00
愛知県芸術劇場 小ホール
(愛知県芸術文化センター地下1階)
主催：お問い合わせ：愛知県芸術劇場
052-971-5603 eventteam@or.jp

サウンドパフォーマンス・ プラットフォーム2019

2019年2月9日(土)・2月11日(月・祝)

場 愛知県芸術劇場 小ホール
所(愛知芸術文化センター地下1階)

「コンサート」ではこぼれ落ちてしまうような前衛的な音楽作品や、台詞や身体表現を伴う作品など、ひとくくりにはできない新たな音のパフォーマンスを一挙に紹介する場、「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム」。ゲストとして登場する4組のアーティストに加えて、公募から選ばれた出演者が2日間に分かれて登場します。今回のテーマは、「音響(PA) ⇄ 公衆伝達(パブリック・アドレス)」。サウンドパフォーマンスを支えるPA(電気的な音響拡声装置)の語源であるPublic Address(公衆伝達)に立ち返り、「音を観客にどのように届けるのか」をテーマにしたパフォーマンスを募集しました。このプラットフォームでの出会い、衝撃が、新しいアウトプットへつながることを期待しています。

2月9日(土) 17:00 Aプログラム



夏の大△

大城真、川口貴大、矢代諭史による、自作の装置やその場に存在するオブジェクトを利用し、リアルタイムに構築や解体作業を行う演奏やインスタレーション展示を行うグループ。2010年大阪の梅香堂での展覧会「夏の大△(なつのだいさんかく)」を発端に活動を始める。国内外のフェスティバルやライヴイベントで活動を行なっており、多様なアーティストとのコラボレーションも多い。

●ゲストアーティスト



藤田陽介

自作パイプオルガン+水(水槽)+声によるライヴ・パフォーマンスが主軸。∈Yヨ(ボアダムス)との共作舞台「メモリーム」(2015)以来、水を扱うことに特に尽力している。近年の展示作として、土中の幼虫(アメリカミズアブ)の音を可聴化する作品「CELL」(札幌国際芸術祭2017)などがある。普段は山の中で爆音のチェーンソーを振るい、木の倒れる瞬間の音を録音しながら暮らしている。

●公募アーティスト

大久保雅基

『sd.mod.live』

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] メディア表現研究科修了。楽器や演奏行為にテクノロジーを組み込み、生演奏とデジタルの所作を融合させた作品を制作。上演作品は、生楽器を振動スピーカーで演奏する現代版オーケストリオン。

杉野晋平

「パイルドライバー」

愛知県蒲郡市生まれ。武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科卒業。身体と音を使ったパフォーマンスとインスタレーションを行う。上演作品は、自作の楽器を土の地面に打ち込むパフォーマンスを予定。

dobby/仮説

「チョウシ助」

ダンスユニット「dobby」とロックバンド「仮説」によるパフォーマンス。その場の音から影響されたカラダの動き、さらにはその動きに反応する演奏者により、観客に音をダイレクトに伝える。

◆主催・お問合せ

愛知県芸術劇場

〒461-8525
名古屋市東区東桜1-13-2
TEL 052-971-5609
(10:00-18:00)
event@aaf.or.jp
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>
やむを得ない事情により、内容・出演者等が変更する場合があります。

●チケット 当日券のみ

一般 2日通し券 3,000円

一般 1日券 2,000円

U25 1日券 1,000円 (25歳以下・要証明書)

高校生以下:無料 (事前申込必要)

2日通し券は
特製ステッカー
付き!

※開場は開演の15分前。※両日とも公演後に出演者によるアフタートークを予定。その後、鑑賞&レビュー講座も開催。詳細はウェブサイトをご確認ください。

●ゲスト アーティスト

電力音楽

作曲家の木下正道とチェリストの多井智紀が「演奏とは何か」をそれぞれ独自にかつ端的に思考するうちに、電気機器の使用に行き着き、自宅などでセッションを開始。程なく池田拓実が合流し、三輪真弘の「中部電力音楽宣言」を横目で見つづけ、「電力音楽」を名乗り、東京各所で演奏を開始する。池田はコンピュータ、木下はジャンクミキサー、多井は分解したエフェクターやラジカセをそれぞれ主に演奏する。



Hair Stylistics

中原昌也によるソロ・プロジェクト。

1980年代末から「暴力温泉芸者」名義で音楽活動を続け、日本以外での評価も高い。

97年からユニット名を「Hair Stylistics」に改め活動。

2004年にアルバム『custom cook confused death』を発表以降、数多くの作品のリリース、ライブなど精力的な活動が続いている。映画評論、作家など多岐にわたる活動でも知られる。



●公募アーティスト

Affine

「7 leaves」

作曲・パフォーマンス活動を行うささきおりと、音響・映像技術の研究開発エンジニア秋山Bob 大知のユニット。上演作品は、「描く」ことを物どうしを擦る「演奏」行為と捉えて、見えるドローイングの線と聞こえる音との間で異化作用を生じさせるパフォーマンス。

signal compose

「visible/hidden/
re-visible」

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、在校生・卒業生による、エンジニアリング/アートワークを行うチーム。テクニカルなアプローチで、エンターテイメントやアートを考え、作品づくりを行う。上演作品は、人間の演奏をAIが解釈して共演するパフォーマンス、そこには人間どうしてない別の音楽的コミュニケーションが発生する。

大所帯非楽器 アンサンブル POLY!

「パノラマ並奏曲」

「非楽器による大所帯アンサンブルをしましょう。」という呼びかけに応じて10代から50代の表現者が緩やかに集合。ホールや解体現場での公演を経た今回、日用品=音を奏でる楽器を、観客と交え演奏することにより、観客とプレイヤーとが渾然一体となった豊穣な場を生み出すことを目指す。

公募アーティスト審査員

新見永治(パルル)、森田太朗(K.D japon/喫茶モノコト)

野口順哉(外/空間現代)、藤井明子(愛知県芸術劇場プロデューサー)

